

日本作文の会編

日本の 子どももの詩

山口



日本作文の会編

日本の
子どもの詩

山口

日本作文の会

日本の子どもの詩 35

岩崎書店 昭56

110 P 21cm

内容：35 山口

〔分〕911

日本の子どもの詩 35 山口

一九八一年八月二五日 初版発行

編者 日本作文の会

発行者 森山甲雄

印刷所 株式会社 K・M・S

株式会社 金羊社

製本所 小高製本工業株式会社

発行所 岩崎書店

東京都文京区水道一―九―二
電話(〇三)八二二・九二二(代)

©1981 Nippon Sakubun no kai 〔分〕8392 〔製〕108035 〔出〕0360

はじめに

各都道府県別につくられた四十七冊のこの本ゼンたいには、一九一八年「赤い鳥」が創刊されてからあとの六〇年間につくられた、日本の子どもの詩のおもなものが、年代順にならべてあります。

これらの詩は、そのときどきによって、児童自由詩、童詩、児童詩、児童生活詩、生活童詩、生活綴方の詩などもよばれ、世界にもまれなものであります。

これらは、ねっしんな先生たちによる創造的な教育のいなみとしてうまれたものですが、日本の子ども自身がつくりだした芸術（現代の子どもの「わらべうた」）としても、大きな意味があります。

わたくしたちは、このことを頭において、念入りにこの本をつくりました。

この一冊は、そのうちの「山口編」であります。どうぞ、ひとつひとつといねいにお読みください。



1918
~
1945

8

湯
まつばら

太陽

麦田

ばらの花

牛

春の夕ぐれ

しずかな夕方

かせ

10

馬

せい材所

11

平家山

梅

12

ふく
よその窓

山にある家

13

夜道

雨の夜

白さぎ

坑内のつな

あがる人

14

母

坑内

きかい

お父さん

15

銭のにおい

選炭婦

16

母の仕事がえり

17

卒業する

うちの兎

18

村田のじじい

母の乳

20

さくら

21

おはなし

鯉で見送る

22

旗

見送る

ご遺骨



1945
~
1959

38	32	31	30	29	28	27	26	25	24
新聞	いもうと	ねこぐるまのじどうしゃ	月見	山	つばめ	手帳	あぶ	みのも	にわとり
バラの木にいた虫たち	おとうちゃんゆび		仕事	小づかい	ぜいきん	田すき	牛ごや	うしのこと	ふぐつり
	となりのやぎ						こうし		

46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	34
いもほり	駐留軍	せいざい所	かや	子もり	ちゃん	とんぼ	射的場	土方	草とり	せん水夫	ブルドーザー
旅行	台風	年代表	いねこぎ	かみさま	十円	まめこなし	みかんもぎ	父と酒	げんばく	ヤンマーをかける時	
	バクダン		農はんぎ							青黒いかに	

47 おかあさんのて

せんせいのくびまき

ろくむし

48 せいまいしよ

はたおり

49 ふろたき

みみくそとり

テストの点

50 お父さん

みっちゃんの父さん

51 しょうい軍人

のら犬

風呂たき

52 母の手

母の姿

54 もめんひき



1960
~
1969

56 みんなべろり

つくし

ふしあなの光

のうはん期

58 57 たけのこ

父の仕事

59 ベトナムの子ども

汽車

60 春

水の哀しみ

62 ふしぎなまどガラス

せんせいのるす

63 さんかん日

あかんべえ

64 父の仕事

きんぎょ

65 空

働く人たち

66 海

平和を知らない人びと

67 おばあちゃんので

ぜんそくでていってくれよ

68 ぼどうきよう

べんとう

70 おとうさん

ひとりごと

71 貝ほり

おとうさんの手

72 集金袋

73 谷の水

わたしの好きな色

牛

74 晩鐘をもう一度

75 こたつ

76 おしえて

77 はたけのくさ

78 ほしがき

79 小さな船

80 しらが

81 カエル

82 石や

83 テスト

84 僕の松葉ずえ

85 白い障子

空



1970

～

86 あかちゃん

87 すいせん

88 しょうじょう

89 うるさい音

90 びわのめ

91 藤中さんのおかあさんのおそう式

92 映画「イタイイタイ病」

93 わたしは小さい

94 物価の値上げ

95 なにかありそう

96 中学三年生

97 うんどうじょうで 木をきっている

98 にじ

99 やったぜ五日間

100 じよろぐも

101 おぼんのはかまいり

102 バラの花

103 父

104 広告

105 こう害

106 くさい海

107 戦争

108 阿蘇山

109 たまごやき

110 ありのぎょうれつ

111 ありんこ

112 いなかのおばあちゃん

113 風

114 春江が生まれるとき

115 しゅうちみかん

116 ゆめ

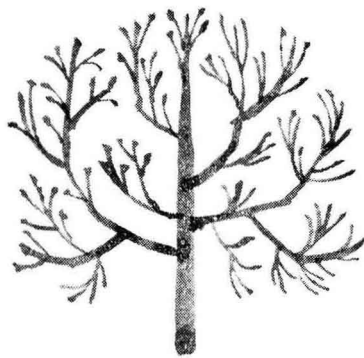
117 豊作

118 祖母

103 弟 おかあさんのかぜ
雪
102 みの虫
101 100 公害はいや
ミシン
あさがおのたね
かわいそうなジュリちゃん
ねしょんべんのこと

110 107 あとがき——山口県の児童詩指導の歩み
この本の編集をした人たち
106 105 104 雪
父のボーナス
紙不足
新聞くばり
*





1918～1945

(大正7年)

(昭和20年)

ここからは

* 日本の子どもたちが、はじめて
詩をかきはじめたころのもの。

* すくない指導者が、しっかりと、
子どもの詩を育てていたころの
もの。

* 戦争中のもの。

こんな詩が年代順にならんでい
る。

湯

白い煙が

ふらふらとからだをまいて、

やがて出て行く

まどの外、

おい、煙やどこへ出て行くか、

ふらふらふらふら。

西本伍作 小5

豊浦郡栗野校

まつばら

かぜにふかれる、

まつのをえだ、

みどりのほりを、

いっぱいゆらす。

ほりは、ほりと、

なにかそうだんするのか。

池田春子 小1

佐波郡華浦校

太陽

高い青空で、

金のりんごが、

世界をてらす。

中村敏夫 小6

佐波郡牟礼校(指導)寺田一

麦田

青い麦田、

みどりの畳たたみ、

ひばりのおうち。

桑原泰彦 小6

佐波郡牟礼校(指導)寺田一

ばらの花

鬼のばあさん、

赤いおひめ様をうんだ。

平田 晋 小6

佐波郡牟礼校(指導)寺田一

牛

今日かわった牛は
かわいらしい牛だ。
夜風が吹くが、
牛はだまってる。

木村 勇 小4

春の夕ぐれ

春の夕ぐれ、
青田の中に、
がらがらなくなつたにし、
あたまふつて帰る
うちの小牛。

熊毛郡塩田校(指導)松岡伊作

酒谷 栄一 小5

熊毛郡塩田校(指導)松岡伊作



しずかな夕方

雨やんで
しずかな夕方、
にごった川の水へ
僕ぼくのかげが
にごってうつつている。
しずかな
夕方。

木村 勇 小5

熊毛郡塩田校(指導)松岡伊作

かぜ

かぜが ふうふうと、
いっしょうけんめいに
くもを おしています。
あまどが
がたんがたんと
ゆれています。

よしもとまさお 小1

あまどの　とは、
はずれかかっています。
そこへ　お月さまがでて、
みんな
明るくなった。

宇部市神原校

馬

相本吉市 小4

木をつんでかえた馬
ひーひーひんとないた
小便が長い
あせがでている
よく仕事をしたんだね
主人がわらをきるのを見て
ひ・ひ・ひーんとないた
足で地をたたいて
ばかばかしている

宇部市沖ノ山校(指導)師井恒男

馬

松本義信 小4

あるいている馬
下に口をとどすようにして
いきを三かくにふいている
車があたがたとまわる
のしてある砂
じんじんとひびく

宇部市沖ノ山校(指導)師井恒男

せい材所

国光武男 小4

大きなふしのある木
「ざーん」と音が出た
ふしからやがが出る
働く人　力を入れておす
仲なまの人の手
ゆびがもげている

宇部市沖ノ山校(指導)師井恒男

平家山

延吉重泰 小4

晴れた日ように平家山を見れば、
何だかのぼりたいような気がする。

じっと見つめてみると、
昔の平家がいる様だ。

平家山の上には
いつも雲がういている。

玖珂郡麻里布第一校(指導)恩田操

平家山

村上節子 小4

平家山へのぼったら

小さな家がたくさん見えた。

麻里布まりふえきときかんとこと

人絹工場じんけんと

私たちの目が目立って見える

あの工場の中でおとうさん

一しようにんめいに

しごとしているだろうなと思ひながら

山をおりていった

玖珂郡麻里布第一校(指導)恩田操

梅

相本吉市 小4

お茶かいに行きしな

お寺の前を通った、

梅のにおい

僕のはなを

ぬけ通るようだ、

もう春だ、

子どもたち

梅の下であそんでいる、

ここであそんだら

きもちがよからう。

宇部市沖ノ山校(指導)師井恒男

ふく

井上静則 小4

ふくをかった、
うれしい、
おとうと
おくてないている、
母が僕に
ずつくをかってやれと
いった。

宇部市沖ノ山校(指導)師井恒男

よその窓

渡部昌子 小4

よその窓から
ずがや かき方が見える、
はげかかったかべ――。

玖珂郡麻里布第一校(指導)恩田操

12

山にある家

藤田保憲 小4

新港の方を歩くと、
山にある家に
窓がある、
それを見ると
いつも考える
いつでも窓がしめてあるがと。

玖珂郡麻里布第一校(指導)恩田操

夜道

坂本静香 小5

さみしい月夜の夜の道
杉垣のそばを通ったら
くもの糸が一すじ
すうと頭に
ひっかかった

玖珂郡麻里布第一校(指導)広重春吉

雨の夜

藤本登 小6

ばらばらとたたく
とたんぶき
どこか遠くの方で
読方をよむ声でした

真黒な雨の夜

玖珂郡麻里布第一校(指導)広重春吉

白さぎ

藤本五夫 小5

白さぎが 十五六羽
田の中でえさを拾っている。
二三羽、田の上で
羽ばたきをしながら
とぶとぶえさをさがしてる。
ただ一羽 こちらをにらんで
くびをまげてえさを拾ってる

玖珂郡麻里布第一校(指導)広重春吉

坑内こうばいのつな

橋本宗一 小4

こうないのつなが
きりのようにいうごく、
こうないの中に
穴をほって行くような。

宇部市沖ノ山校(指導)師井恒男

あがる人

下山輝雄 小4

僕がこうないの
はいるところにあたってみると、
でんきをつけた人が
くらい中を
つえをついてあがる、
父もでんきをつける、
あかいところまでくると
はあといきをつぐ。

宇部市沖ノ山校(指導)師井恒男

母

岡崎健二 小4

まだつなはとまらない、
坑内の中はふかいのだな、
どこへんまではいっているのかな。

宇部市沖ノ山校(指導)師井恒男

父が目をまるくして、

あせをながしながら

頭をなぐった、

目がまわった、

せんたんぼの火

ほんやりと見える、

母はあすこで

仕事しているんだな。

宇部市沖ノ山校(指導)師井恒男

14

きかい

権 永壽 小4

こうないの

すみあげ車があがった、

モーターがまわる、

いったら

風がすうすうと音をたてる。

宇部市沖ノ山校(指導)師井恒男

坑内

井上静則 小4

お父さん

檜垣静雄 小5

はこが坑内の中に

はいつていった、

ごうごうと

おとがする、

九垣の山に競技をならしにいった。

おれが海の方を見ていると、

上山のまきいさんが、